

2021年度 シラバス

科目名	動物薬理学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学2」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、動物看護師による薬物の取り扱いや神経系に作用する薬物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物看護師による薬物の取り扱い	薬理学概論 医薬品の基準と分類、医薬品の開発						
第2回	動物薬理学の基礎①	薬と薬理作用、薬理作用の発現機構 薬の剤形と投与方法						
第3回	動物薬理学の基礎②	生体内での薬の動態(吸収、分布、代謝、排泄)						
第4回	動物薬理学の基礎③	薬効に影響を与える因子 薬の有害作用						
第5回	神経系に作用する薬①	神経系の基本的事項①						
第6回	神経系に作用する薬②	全身麻酔薬 局所麻酔薬						
第7回	神経系に作用する薬③	鎮痛薬 骨格筋弛緩薬						
第8回	神経系に作用する薬④	鎮静薬、抗痙攣薬 問題行動の治療薬						
第9回	呼吸器系に作用する薬①	呼吸興奮薬 鎮咳薬						
第10回	呼吸器系に作用する薬②	抗喘息薬(気管支拡張薬)						
第11回	循環器・泌尿器に作用する薬①	血管拡張薬(降圧薬) 心不全治療薬(強心薬)						
第12回	循環器・泌尿器に作用する薬②	抗不整脈薬 利尿薬、抗利尿薬						
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2021年度 シラバス

科目名	動物薬理学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物薬理学 I の単位履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学2」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、循環器・泌尿器に作用する薬物や消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物・化学療法薬について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	消化器に作用する薬①	制吐薬と催吐薬、抗潰瘍薬 消化管運動促進(調整薬)および抑制薬(鎮痙薬)						
第2回	消化器に作用する薬物②	止瀉(制瀉)薬、瀉下薬(緩下薬、下剤) 肝・膝疾患の治療薬						
第3回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬①	オータコイドとは						
第4回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬②	抗炎症薬 糖尿病治療薬						
第5回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬③	甲状腺機能障害の治療薬 脂質代謝異常の治療薬、骨代謝異常の治療薬						
第6回	血液に作用する薬	貧血の発生機序と抗貧血薬 血液凝固阻害薬、血液凝固促進薬(止血薬)						
第7回	免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬 ワクチン						
第8回	化学療法薬①	抗腫瘍薬						
第9回	化学療法薬②	抗菌薬・抗真菌薬①						
第10回	化学療法薬③	抗菌薬・抗真菌薬②						
第11回	化学療法薬④	駆虫薬・抗原虫薬、殺虫薬						
第12回	化学療法薬⑤	消毒薬						
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2021年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学3」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、感染の発症・経路や細菌について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	序論 ウイルス学総論	微生物、感染症および微生物学の歴史 ウイルスの分類～ウイルスの伝播						
第2回	細菌学総論①	細菌の分類、細菌の大きさ・形態・構造 細菌の増殖・代謝						
第3回	細菌学総論②	細菌の遺伝子 細菌の感染・発症						
第4回	真菌学総論	真菌の分類と特徴、真菌の増殖にかかわる要因 真菌の増殖様式と真菌種名、人獣共通感染症としての真菌						
第5回	プリオン総論 微生物検査法①	異常型プリオン 微生物検査におけるバイオセーフティ						
第6回	微生物検査法②	滅菌と消毒						
第7回	微生物検査法③	ウイルス検査法						
第8回	微生物検査法④	細菌検査法 薬剤感受性試験						
第9回	微生物検査法⑤	真菌検査法 プリオン病の検査・診断法						
第10回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療①	感染症と病原体および生体防御機構①						
第11回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療②	感染症と病原体および生体防御機構②						
第12回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療③	予防としてのワクチンとワクチネーション 治療に用いる抗ウイルス薬と抗菌薬						
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2021年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物感染症学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学3」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ワクチンについて説明できる。2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	蠕虫類①	総論 線虫類 総論						
第2回	蠕虫類②	回虫類(犬・猫、豚回虫)、ギョウ虫類、アニサキス類						
第3回	蠕虫類③	鉤虫類、糞線虫類、広東住血線虫						
第4回	蠕虫類④	犬糸状虫、東洋眼虫、鞭虫類 治療、看護・ケアおよび予防対策						
第5回	蠕虫類⑤	吸虫類 総論 横川吸虫、肝吸虫、壺型吸虫						
第6回	蠕虫類⑥	肺吸虫類、日本住血吸虫 治療、看護・ケアおよび予防対策						
第7回	蠕虫類⑦	条虫類 総論 犬、猫の条虫類、治療、看護・ケアおよび予防対策						
第8回	衛生動物①	総論						
第9回	衛生動物②	ダニ類①						
第10回	衛生動物③	ダニ類② シラミ・ハジラミ類						
第11回	衛生動物③	ノミ類 双翅類						
第12回	寄生虫症の診断と検査	総論 虫体の固定、保存、染色法						
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2021年度 シラバス

科目名	動物看護学概論 I		単位数	1	科目コード	NB2001		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師の職業倫理について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、動物看護師の倫理や動物看護の提供、動物看護技術の特徴について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	動物看護学総論①	動物看護の対象と目的、概念を理解する						
第2回	動物看護学総論②	動物看護師の需要と必要性						
第3回	動物看護学総論③	チーム獣医療のなかで動物看護師と獣医師の担当する職域の違い						
第4回	動物看護学総論④	獣医師と動物看護師の視点の違い						
第5回	動物看護師の倫理	動物看護者の倫理綱領について						
第6回	動物看護の提供①	動物の健康、福祉、QOL/学校飼育動物における動物看護師の役割について						
第7回	動物看護の提供②	一次診療、二次診療、救急獣医療の役割と動物看護の提供について						
第8回	動物看護技術について考える①	動物看護技術の特徴について①						
第9回	動物看護技術について考える②	動物看護技術の特徴について②						
第10回	動物看護技術について考える③	動物看護技術の範囲について①						
第11回	動物看護技術について考える④	動物看護技術の範囲について②						
第12回	動物看護技術について考える⑤	動物看護技術の範囲について③						
第13回	動物看護技術について考える⑥	動物看護記録の作成、保存義務、開示義務について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	動物看護学概論Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2002		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護学概論Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師の倫理規定について、各条項をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、動物看護過程の展開や獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	動物看護過程の展開①	動物看護過程の目的や意義、方法について①						
第2回	動物看護過程の展開②	動物看護過程の目的や意義、方法について②						
第3回	動物看護過程の展開③	動物看護過程の各ステップについて/アシメント						
第4回	動物看護過程の展開④	動物看護過程の各ステップについて/動物看護診断						
第5回	動物看護過程の展開⑤	動物看護過程の各ステップについて/動物看護計画						
第6回	動物看護過程の展開⑥	動物看護過程の各ステップについて/動物看護実践						
第7回	動物看護過程の展開⑦	動物看護過程の各ステップについて/動物看護記録と評価						
第8回	動物看護過程の展開⑧	事例を用いながら動物看護過程の展開の実践						
第9回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡	歴史上にみる獣医療の歴史						
第10回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡	動物看護師の統一認定資格までの軌跡						
第11回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡	国家資格化に向けての軌跡						
第12回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡	愛玩動物看護師法に基づく職域について						
第13回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡	欧米の動物看護師の職域の相違について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	伴侶動物 I	単位数	1	科目コード	NB2009			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルとは何かを説明することができる。2. 各動物の特徴や飼育方法について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、本校で飼育している小動物の飼育管理について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	ウサギの品種と特徴①	ウサギの生態について						
第2回	ウサギの品種と特徴②	ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第3回	ウサギの品種と特徴③	ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第4回	フェレットの特徴①	フェレットの生態について						
第5回	フェレットの特徴②	フェレットの飼養管理・飼養施設/フェレットの主な疾病						
第6回	モルモットの特徴①	モルモットの生態について						
第7回	モルモットの特徴②	モルモットの飼養管理・飼養施設/モルモットの主な疾病						
第8回	ハムスターの品種と特徴①	ハムスターの生態について						
第9回	ハムスターの品種と特徴②	ハムスターの飼養管理・飼養施設/ハムスターの主な疾病						
第10回	チンチラの特徴/ハリネズミの特徴	チンチラの生態について/ハリネズミの生態について						
第11回	飼鳥の品種と特徴①	飼鳥の飼養管理・飼養施設						
第12回	飼鳥の品種と特徴②	繁殖・発情行動について						
第13回	飼鳥の品種と特徴③	飼鳥の主な疾病						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点~90点
小テスト	○	○					10	優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B) : 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D) : 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	伴侶動物Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。2. 猫の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、犬の品種尾と特徴、猫の品種と特徴を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	F C I インターナショナルドッグショー見学	校外授業 (出席・レポート提出にて評価)				2020年5月実施		
第2回								
第3回								
第4回	伴侶動物の種類と歴史	犬、猫、エキゾチックアニマルについて						
第5回	犬の品種と特徴①	犬の歴史						
第6回	犬の品種と特徴②	犬の品種①(JKC第1G~第4G)						
第7回	犬の品種と特徴③	犬の品種②(JKC第5G~第8G)						
第8回	犬の品種と特徴④	犬の品種③(JKC第9G~第10G)/犬の飼育管理(すまい)について						
第9回	犬の品種と特徴⑤	犬の飼育管理②(食事、健康管理)/日々の関わりについて						
第10回	猫の品種と特徴①	猫の歴史について						
第11回	猫の品種と特徴②	猫の品種について						
第12回	猫の品種と特徴③	猫の飼育管理①(すまい、食事)について						
第13回	猫の品種と特徴④	猫の飼育管理②(健康管理)、日々の関わりについて						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NC2006		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素(1.タンパク質、2.脂肪(脂質))						
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素(3.炭水化物、4.ビタミン、5.ミネラル、6.水)						
第3回	動物栄養学総論③/犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症/食性の違い						
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記						
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて(成長期、維持期)						
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて(成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化						
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理						
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは/カロリー計算(食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)						
第9回	肥満と消瘦/フードの給与回数、給与方法	肥満と消瘦とは/フードのタイプ:目的別の分類、給与回数、給与方法						
第10回	手作り食	嗜好性とは/ペットフードの適切な取扱い/手作り食						
第11回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは/猫の特発性膀胱炎						
第12回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患②)	尿路結石について①						
第13回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患③)	尿路結石について②						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2021年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NC2007		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床栄養学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、疾患別による栄養特性、強制給餌と経管・静脈栄養素を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	疾患別による栄養特性(皮膚疾患①)	皮膚疾患の種類/食物アレルギー①						
第2回	疾患別による栄養特性(皮膚疾患②)	食物アレルギー②/犬アトピー性皮膚炎						
第3回	疾患別による栄養特性(肥満)	肥満について						
第4回	疾患別による栄養特性(下痢・猫の便秘)	下痢について/猫の便秘について						
第5回	疾患別による栄養特性(心臓病①)	心臓のしくみ						
第6回	疾患別による栄養特性(心臓病②)	僧帽弁閉鎖不全症とは						
第7回	疾患別による栄養特性(慢性腎臓病①)	腎臓のしくみ						
第8回	疾患別による栄養特性(慢性腎臓病①)	慢性腎臓病について						
第9回	疾患別による栄養特性(肝臓病)	肝臓のしくみ/肝臓病について						
第10回	疾患別による栄養特性(糖尿病)	糖尿病について						
第11回	疾患別による栄養特性(関節疾患)	関節疾患について						
第12回	強制的な給餌方法/経路別の栄養	強制給餌方法/経管・計静脈による栄養の種類と違い						
第13回	中毒物・与えてはいけないもの	犬・猫に危険な、あるいは気をつけたい主な食材とその理由						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2021年度 シラバス

科目名	動物医療コミュニケーション		単位数	1	科目コード	NC2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の健康管理について飼い主向けに説明できる。 2. 院内におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
クライアントエデュケーションを理解し、クライアント(飼い主)が求める8つの条件や院内コミュニケーション、グリーフケアを学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	クライアントエデュケーション①	クライアントエデュケーション概論について						
第2回	クライアントエデュケーション②	クライアントサービスについて						
第3回	クライアントエデュケーション③	適正飼育、健康管理の必要な情報提供/動物と飼い主の良好な関係構築について						
第4回	クライアントエデュケーション④	病気の適切な予防法について①						
第5回	クライアントエデュケーション⑤	病気の適切な予防法について②						
第6回	クライアントエデュケーション⑥	病気の適切な予防法について③						
第7回	クライアントエデュケーション⑦	接遇とホスピタリティについて						
第8回	クライアントエデュケーション⑧	在宅治療(往診)におけるコミュニケーション技能について						
第9回	院内コミュニケーション①	飼い主教育を主体としたインフォームドコンセントについて						
第10回	院内コミュニケーション②	医療面接のプロセス/チーム医療に関するコミュニケーション技能について						
第11回	院内マネジメント①	受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について						
第12回	院内マネジメント②	物品購入や管理/動物保健医療について						
第13回	グリーフケア	看取り、お別れ、お見送り、ペットロスのこと						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2021年度 シラバス

科目名	動物内科看護学実習 I		単位数	1	科目コード	ND2004		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、保定法やバイタルチェックと体重測定法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握							
第2回	被毛や皮膚の管理と実践	ブラッシング、歯磨き等						
第3回	運動の管理と実践 排泄の管理と実践	散歩、個体に適した運動量の算出、安全な歩かせ方、歩行異常の見極めなど衛生的な排泄、排泄による健康管理(異常の早期発見, におい, 便の状態観察)						
第4回	病気の早期発見のための管理・定期的な健康診断の実践	健常時と異常時のしぐさ・容態の違いを知る。体重測定、検尿、検便、血液検査、必要に応じて継続的な検査						
第5回	保定法<実践>①	保定とは、保定の目的、注意点						
第6回	保定法<実践>②	獣医学的な処置に適した保定、保定の種類						
第7回	保定法<実践>③	獣医学的な処置に適した保定、保定の種類						
第8回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践①	体重測定、バイタルチェック						
第9回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践②	体重測定、バイタルチェック						
第10回	輸液管理①	輸液準備(輸液ラインに必要な機材準備、留置針設置)						
第11回	輸液管理②	輸液準備(輸液ラインの接続)						
第12回	注射針、シリンジ等の取り扱い	注射器の取り扱い						
第13回	薬の取り扱い	調剤のための道具の使用法(計量、分包、錠剤(分割と粉碎))						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内に於て前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品			○	○			10	不可(E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kvoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2021年度 シラバス

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	ND2005		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物内科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	グルーミング実習Ⅰ ①	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第2回	グルーミング実習Ⅰ ②	シャンプー実習						
第3回	グルーミング実習Ⅰ ③							
第4回	グルーミング実習Ⅰ ④	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第5回	グルーミング実習Ⅰ ⑤	シャンプー実習						
第6回	グルーミング実習Ⅰ ⑥							
第7回	グルーミング実習Ⅰ ⑦	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第8回	グルーミング実習Ⅰ ⑧	シャンプー実習						
第9回	グルーミング実習Ⅰ ⑨							
第10回	グルーミング実習Ⅰ ⑩	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第11回	グルーミング実習Ⅰ ⑪	シャンプー実習						
第12回	グルーミング実習Ⅰ ⑫							
第13回	グルーミング実習Ⅰ ⑬	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)(試験)/ブラッシング(試験)						
第14回	グルーミング実習Ⅰ ⑭	シャンプー実習(試験)						
第15回	グルーミング実習Ⅰ ⑮							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

2021年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習 I		単位数	1	科目コード	ND2008		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学を履修している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	リネン類のたたみ方	手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる						
第2回	手術室準備・気管内挿管	手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる						
第3回	手指消毒・ガウン装着①	手指消毒・手術着装着が正しくできる						
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着	closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる						
第6回	各種器械使用方法	各種手術器械が正しく使うことができる						
第7回	手術器具準備・器具滅菌	手術器具の準備・滅菌ができる						
第8回	救急救命処置 I ①	救命方法の知識の実践①				※2020年12月実施 ‘ペットファースト’講座にて		
第9回	救急救命処置 I ②	救命方法の知識の実践②						
第10回	救急救命処置 I ③	救命方法の知識の実践③						
第11回	救急救命処置 I ④	救命方法の知識の実践④						
第12回	救急救命処置 I ⑤	救命方法の知識の実践⑤						
第13回	救急救命処置 I ⑥	救命方法の知識の実践⑥						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	ND2009		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1～2回	救急救命処置Ⅱ①	救命方法の知識の実践①				2年次に行われる 救急救命セミナーにて		
第3～4回	救急救命処置Ⅱ②	救命方法の知識の実践②						
第5～6回	手術準備	手術台への動物の固定や器械台の準備、術野の消毒ができる						
第7～8回	麻酔器・各種モニター装着	麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる						
第9～10回	術中補助	直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 関節補助(无影灯や手術台の操作など)ができる						
第11～12回	歯科処置準備・補助	歯科器具の取り扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる						
第13～14回	衛生管理	術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる						
第15～16回	手術見学:事前学習《グループワーク》	手術見学において、必要なことを考え準備ができる						
第17～18回	手術見学:事後学習	前回行った手術について振り返りを行う						
第19～20回	人と動物の関係および行動学	アニマルマッサージを始めるにあたっての基礎知識						
第21～22回	犬の解剖学および生理学	骨格、筋肉/筋肉の停止部と起始部について						
第23～24回	リラクゼーションマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類、実践						
第25～26回	メンテナンスマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類、実践						
第27～28回	実習/フィールドワーク							
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する				※学生証が必要		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2021年度 シラバス

科目名	動物飼育実習 I		単位数	1	科目コード	NH2001		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	伴侶動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	伴侶動物学 I の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認				講義		
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションカを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションカを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備					今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る		
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う				※飼育は当番学生のみで行う。		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点~60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可 (E): 59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/				

2021年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ		単位数	1	科目コード	NH2002																														
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期																														
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有																														
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。																																			
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。																																			
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定																																			
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」																																			
授業の到達目標																																				
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。																																			
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。																																			
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。																																			
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。																																			
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。																																			
授業計画(全体)																																				
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める																																				
授業計画(授業単位)																																				
回	主題	授業内容					備考																													
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける																																		
第2回																																				
第3回																																				
第4回																																				
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す								動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける																											
第6回																																				
第7回																																				
第8回																																				
第9回	自己評価から質の高い飼育を目指す															動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける																				
第10回																																				
第11回																																				
第12回																																				
第13回	飼育実技試験																						グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる													
第14回																																				
第15回																														グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる						
成績評価方法																																				
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上																																				
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																												
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S): 100点~90点																												
小テスト							-	優 (A): 89点~80点																												
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B): 79点~70点																												
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点~60点																												
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下																												
演習			○	○			20																													
出席			○				10																													
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/																															

2021年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ		単位数	1	科目コード	NH2003		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う					※飼育動物の頭数・ストレスを考慮、学年末試験は2回に分けて行う	
第14回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う					※学生証が必要	
第15回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			